

教員の資質能力向上に係る特配(CT特配)活用推進事業報告書

1 取組の概要

平成30年度 太田市立太田中学校 スキルアップ研修会

回	月	日	曜日	テーマ	内容	講師等	対象	備考
1	4	4	水	生徒指導①	本校の学校生活にかかわる基本的な考え方や指導体制に関して共通理解を図る	生徒指導主事 養田教諭	全職員	
2	4	4	水	学力向上①	学力向上に向けた具体的な取組を周知する	学力向上CN 高山教諭	全職員	
3	4	4	水	市立太田キャリア教育①	6年間継続して行う教育プログラムについて、全体構想図を通して把握する	進路指導主事 木村貴教諭	全職員	
4	4	4	水	学校教育理念研修	新任者に本校の教育理念研修を行い、種々の教育活動につなげていく	教務主任 平形教諭	新着任者	
5	4	23	月	学習指導要領改訂に伴う移行措置	平成30年度から新学習指導要領によって実施する指導内容等の確認	学校長	全職員	
6	5	21	月	道徳①(授業実践について)	本年度の道徳の授業実践について	道徳教育主任 荒川教諭	全職員	
7	6	18	月	生徒指導②	場面に応じた指導方針等の実践	生徒指導主事 養田教諭	全職員	
8	8	16	木	講義:道徳	道徳の教科科に向けて	太田市教育委員会 栗原 指導主幹	全職員	市教委に依頼し、実施
9	9	25	火	学力向上②	全国学力・学習状況調査結果を分析し、今後の教育活動に生かす	学力向上CN 高山教諭	全職員	
10	10	22	月	キャリア教育②	本校のキャリア教育充実に向けて	進路指導主事 木村貴教諭	全職員	
11	11	19	月	生徒指導③	いじめ防止について	生徒指導主事 養田教諭	全職員	
12	12	17	月	総合的な学習の時間	現状の課題と次年度の指導計画について	総合主任 木村貴教諭	全職員	
13	1	21	月	新教育課程について①	次年度の教育課程にかかわる研修会	各教科等主任	全職員	
14	2	25	月	道徳②(評価について)	年間指導計画 評価方法等の共通理解	道徳教育主任 荒川教諭	全職員	
15	3	11	月	新教育課程について②	年間指導計画・評価方法等について	各教科等主任	全職員	

平成30年度 校内研修計画

回	月	日	曜日	内容
1	4	4	水	本年度の研修のあり方について
2	4	23	月	指導主事訪問日に向けて 教科部会
3	5	21	月	研修の進め方 指導主事訪問日程
4	6	18	月	指導主事訪問日確認
5	6	20	水	1学期 市教委指導主事訪問
6	8			教科部会(『目指す生徒像と手立て』再構築)
7	9	25	火	今後の研修進め方 2学期指導主事訪問に向けて
8	10	22	月	指導主事訪問日程等について 教科部会
9	11	19	月	校内研修『中間報告会』 研修中間報告書について
10	12	3	月	2学期市教委指導主事訪問・公開授業
11	12	17	月	指導主事訪問を受けて 研究紀要作成に向けて
12	1	21	月	今年度の校内研修の検証について アンケートの実施(成果と課題)
13	2	25	月	来年度に向けて
14	3	11	月	次年度研修テーマ検討会

※毎週水曜日第2校時 研修企画委員会

※各教科部会 毎週1時間

2 成 果

授業改善に関わるテーマ研修の充実とともに、本校教育課程編成・実施上の共通課題に関わる研修を深めていく必要性があった。そこで、テーマ研修と平行して必要な研修を「スキルアップ研修会」として計画し、実施した。

成果としてあげられる主な点は以下のとおりである。

- コア・ティーチャーという位置づけを得た担当者が、その意義を理解し使命感を持って研修の計画・立案にあたったので、学校に必要な研修が実施しやすい環境となった。
- 研修主任がコア・ティーチャーを兼ねていたため、テーマ研修の進行状況を考慮しながら必要なスキルアップ研修を適切な時期に計画することができ、効率的な研修となった。
- 本校教育課程の特色の一つであるキャリア教育についての認識を全職員で深めることができた。
- 本校の方向性に合致した生徒指導の在り方について協議し、共通理解を深めることができた。また、いじめに関する研修も各学期確実に実施できた。
- 道徳の教科化に向けて必要な研修（授業改善及び評価）を実施し、授業改善のポイント、評価の観点、評価資料、具体的な評価事例等について情報共有し、共通理解を深めることができた。
- 本校の教育課程の特色でもある「総合的な学習」について、年度の途中で振り返る時間が設定でき、現状の課題や次年度計画立案上の課題等が確認できた。
- その時々々の研修の講師等に本校の担当者があたることで、実情に合った研修ができ、あわせて担当者の資質向上にもつながった。

3 課 題

- コア・ティーチャーの配置の有無に関わらず、テーマ研修と職能成長のために必要な研修の双方を視野に入れ、研修を推進していく意識を今後も高めていかなければならない。
- 上記の研修をともに充実させていくには、研修時間の捻出は今後とも大きな課題である。